

2006 ジャパンパラリンピック陸上競技大会

今年のジャパンパラリンピックは、9月30日・10月1日の両日、岡山市の桃太郎スタジアムで開催された。桃太郎スタジアムは、昨年開かれた第6回障害者スポーツ大会「輝いて！おかやま大会」の主会場であった。この競技場は、世界的にも珍しい遺跡と融合する施設でもある。その遺跡は、津島史跡で



縄文時代後期から近代にいたる複合遺跡で、長い時代にわたる人々の生活の痕跡を示す重要な文化財である。特に、弥生時代前期における集落と水田跡の発見は、わが国の本格的な稲作開始期の実態を初めて

明らかにした遺跡として歴史的にも貴重な遺跡である。玄関を入ると、足下はガラス張りで下に津島遺跡が覗けるようになっている。

さて、競技だが、一日目は好天に恵まれ、フィールドではF5 3クラス円盤投



げの大井利江選手が、9月のIPC世界選手権で作った世界記録25m67を、1ヶ月も経たない今大会で、26m62と世界記録を更新した。2日目は、朝から陸上競技としては条件の悪い雨天となり、特に車椅子のトラック競技では、ハンドリムが滑りやすく、残念ながら記録の更新は無かった。し

かし、立位F4 4クラス走り高跳びでは、鈴木徹選手が2mを跳び、日本記録の更新を達成した。現在、世界で2mを跳ぶ同クラスの選手は3人しかいない。日本身体障害者陸上競技連盟としては、北京パラリンピック大会における鈴木選手の活躍が楽しみとなった。



最終的には大会新記録が43個、日本新記録が23個の更新となった。更には今回の大会では、新しい試みとして、ジュニア選手も競技に参加できるようにした。今後も、若い選手の参加が増えていくことを期待している。